

末信町会とのタウンミーティング

日 時 令和6年10月27日（日）10:30～11:00

会 場 末信町コミュニティセンター

参加人数 約50人

1) 開会

2) 末信町会長 挨拶

3) 市長 市政報告

○令和6年能登半島地震

・市内では、罹災証明書の申請が約1,500件出されている。一番大きな被害は、緑が丘ののり面崩落による道路陥没である。このほか、マンホール周辺の陥没や美化センターののり面崩落、プールの液状化、神社の燈籠や石碑の倒壊、九谷焼美術館での九谷焼破損等の被害が出ている。

・能登から避難をされてきた方に対応するため、避難所の設営を行った。辰口福社会館や旅館、ホテルだけでなく、市営住宅や借り上げた市内のアパートに住まわれたり、友人や知人の家に身を寄せられた方もいらっしゃったりして、一番多いときで約300名の方が避難をされていた。

・能登への支援として、人材派遣や消防車、救急車、給水車、パッカー車の車両派遣も行った。市民の皆さんから集まった義援金や物資を能登へお届けするとともに、イベント等で能登の様々な特産品の販売も行った。私も何回か能登へ被害状況の確認に行き、首長さんとどのようなことが必要なのか情報交換を行った。

・9月には大雨被害もあり、大きな自然災害がどうして同じ年に能登ばかりに起こるのかという思いである。復旧・復興が果たされるまで、しっかり応援をしていきたいと考えているので、末信町の皆さんにもご支援、ご協力をいただけるようお願い申し上げます。

○令和6年度事業・施策／方針・目的

・事業・施策の方針に7本柱があり、毎年5つの方針・目的を設定し、そのすべてが移住定住の促進につながるように取り組んでいる。自治体の勢いや繁栄を表す数値はいろいろあるが、私は人口が重要だと思っている。人口増には自然増と社会増があり、今、能美市は自然減、社会増となっている。いかに健康寿命を延ばすか、赤ちゃんを産みたいと思ってもらえるような環境を整備するかが重要であり、そのための取組を行っている。

○防災減災対策

・行政の最大の使命は、市民の生命と財産を守ることであり、防災減災対策に力を入れている。

・一昨年(2021年)の8月の大雨により、様々な被害が出たことを受け、手取川宮竹用土地改良区と協定を結び、大雨警報が出たときに手取川から取水しないようにした。これによって、宮竹用水を宮竹排水として使うことができ、市内に降った雨を手取川又は梯川に流すことで、内水被害に対して一定の効果が出るようになった。

・大雨の被害が大きかった寺島町周辺の鍋谷川の川幅を倍にしたり、梯川も川幅を広げるとともに体積土砂を取り除いたりし、同じ雨量の大雨でも同じような被害が出ないように対策をとっている。

・令和6年能登半島地震を教訓に、簡易トイレ、使い捨ての哺乳瓶の備蓄数を増やした。

・緊急車両等の充実も図っており、はしご車やバギー車、ドローン等を揃え、能登半島地震のときも大変役立った。救急車も能美市の人口規模では、3台体制で十分とされているが、金沢大学附属病院や県立中央病院への搬送を行うとなると、その間、市内の救急車の数が不足するので、最新鋭の救急車をもう1台増やし、4台体制としている。

・2018年に大雪が降ったことを受け、小型式の除雪車を増やし、皆さんに使ってもらえるようにしている。

・交通事故対策として、ゾーン30というエリアを指定して、時速30キロ以上出せないような場所を市内に2か所に設けているほか、標識の設置や見えにくい曲がり角の道路幅を拡

張するなどの取組を行っている。

- ・災害情報をいつでもどこでも受け取れるようLINEを導入した。災害情報だけではなく、能美市の様々な情報を簡単に取得することができるので、まだ登録されていない方はぜひお友達登録していただきたい。

○市民力・地域力の強化

- ・市民力・地域力が能美市の強みであると思っていたが、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴って、交流の機会が少なくなり、市民力・地域力が落ちてきた。特に壮年団や女性会等の所属人数が大幅に減ってきており、女性会が解散する地区も出てきていると聞いている。市民力・地域力をどうやって高めていくかが課題である。

- ・市民力・地域力の維持に一番重要であるのが、町会・町内会であり、町会長・町内会長の皆さんと情報交換をしながら、各種施策に取り組んでいる。

- ・来年、能美市誕生20周年を迎えることから、ふるさと愛醸成のため、今年度、町会・町内会に一定額を補助するふるさと愛醸成事業を行っている。末信町では、餅つき器具や防災グッズ購入に使っていただいたと聞いている。

- ・多くのイベントを開催したり、施設を整備したりすること等により、能美市に生まれてよかったと思ってもらえるようにしていきたいと考えている。

- ・市民力・地域力の強化には、まずは健康であることが大切であり、市立病院に健診センターを設置し、人間ドック費用助成の増額等を行った。

- ・能美電が開通して100年、廃線して45年、能美市誕生20周年の節目である2025年に合わせて、北陸鉄道能美線跡の健康ロードの整備を順次進めている。健康ロードは多くの市民が歩いたり、通学路としても利用されていたりするので、桜の根による隆起の修繕、照明の整備等を行った。駅の看板等にQRコードを付け、周辺施設の紹介等も行えるよう考えている。

- ・子育て世帯の家計を支援するため、学校給食費の無償化を行った。中学校は、昨年度の2学期から、小学校は3学期から無償化を行っている。

○地域ブランドの確立

- ・幸福度や暮らしやすさ等を市民に調査したウェルビーイング指標によると、能美市の強みは「住宅環境」や「子育て」、「自然の恵み」であり、弱みは「買い物・飲食」「遊び・

娯楽」「移動・交通」であった。しかし「遊び・娯楽」では、市内には、いしかわ動物園や手取フィッシュランド等があり、遊ぶ場所はそろっているのではないかと思う。「買い物・飲食」についても、のみ商業協同組合の75店舗やスーパーがあり、また最近はドラッグストアが増えてきている。

- ・企業誘致が大変好調であり、また、地元の企業の業績も好調であることから、市税収入が増えている。令和元年度に初めて90億円を超え、その後も順調に推移をしている。

- ・企業誘致が好調な分、従業員を確保するため、住む場所が必要となることから、宅地の造成を行っている。若葉保育園の跡地は、ほぼ完売の状況である。

- ・能美市のことを広くPRし、能美市を選んでもらえるように、シティプロモーションを行っている。例えば、名誉観光大使である松井秀喜氏に協力をいただいたいて、アニメを制作し、テレビCMを行っている。

○インクルーシブシティ構想

- ・子どもから高齢者、障がいのある人、外国人など、能美市に住む全ての人が安全・安心、快適に暮らせるよう、デジタル技術と市民力を活かした地域共生社会の実現に取り組んでいる。

- ・デジタル公民館として様々な取組を行っており、例えば、高齢者はいきいきサロンやスマホ教室に参加するために、子育て世代はeスポーツを体験するために、子どもたちにはChrome bookを持って、勉強するために公民館に来てもらう。そして、子どもたちが、勉強でわからないことを高齢者や子育て世代の方に教えてもらったり、高齢者がスマホの使い方子どもに聞いたりというような交流を公民館でできないかと考えている。

- ・公民館に監視カメラを設置し、公民館の付近の川がどれだけ増水しているかや、子どもたちが通ったかどうか等をチェックできるようにする。

- ・オンライン診療にも取り組んでいる。慢性疾患をお持ちの方は月に1回、薬をもらうため、通院して診療を受け、薬をもらう必要があるが、その負担軽減を図るため、公民館でオンラインによる診療が受けられるようにしようとしている。栗生町で試験的に始めており、様々な課題を解消しながら、順次広げていこうと考えている。

- ・東日本大震災のときに多くのカルテが流され、診療情報がわからなくなることが発生し、全国的に電子カルテ化が広まった。今回の能登半島地震では、能登の一部の人が電子カルテに登録してあったことから、避難先の能美市でも薬をもらうことができた。能美市全体

で同じ電子カルテを広げることによって、検査結果を他の病院でも確認でき、医療費が安くなり、初診が早くなるという利点があるほか、病院やケアマネージャー、薬剤師、救急隊等が情報を共有できるようになるメリットがある。また、万が一、能美市に大きな災害が起こり、市民が他自治体に避難しても、そこでスムーズに薬がもらえるようになるので、少しずつ今準備を進めている状況である。

○市民ファースト・現地現場主義

・市民の皆さんと意見交換をさせていただきながら、市の施策・事業に意見を反映させ、皆さんに住み続けたい、住んでみたいと思っていただけるまちになるよう、しっかりと取り組んでいくので、皆さんのご協力とご支援をお願いしたい。

4) 閉会